

旧 年中はお世話になりました。本年もどうぞ宜しくお願い致します。

昨年十月に林光汰の長女が誕生、十一月に林妙子法尼が遷化、慶びと悲しみが訪れた一年でした。

本年も皆様のお力をお借りして僧侶・寺族共に力を合わせて、より良いお寺を目指し日々努力致します。

正月元朝より各家庭の室内安全、また皆様が心穏やかに本年一年を過ごすことができようご祈念しております。



vol. 08
令和5/冬



立雲寺 だより



節分析会

2/11(土)
13:00~
水行
節分析会
豆まきはなし

水

行で身体を清め、ご祈禱を行います。これまで行っていた豆まきは今年も残念ながら開催せず、祈願札をお申し込み頂いた方に豆をお配りする形にしたいと思います。

厄年・家内安全・交通安全・身体健全・当病平癒・交通安全・商売繁盛・家相方除・星まつり：各ご祈願を受け付けております。

厄年とは、一生涯に対する人の運気の流れが悪くなり、様々な厄災に見舞われやすい年です。この機会にご祈禱を受け、厄を祓きましょう。また厄年の方は



〒050-0086
北海道室蘭市大沢町 2-4-1

TEL (0143)44-4306
MAIL ritsuunji@gmail.com

立雲寺公式サイト



令和5年厄年早見表 女性(数え年)

前厄	本厄	後厄
平成18年生 18歳 いぬ	平成17年生 19歳 とり	平成16年生 20歳 さる
平成4年生 32歳 さる	平成3年生 33歳 ひつじ	平成2年生 34歳 うま
昭和39年生 60歳 たつ	昭和38年生 61歳 うさぎ	昭和37年生 62歳 とら

男性(数え年)

前厄	本厄	後厄
平成12年生 24歳 たつ	平成11年生 25歳 うさぎ	平成10年生 26歳 とら
昭和58年生 41歳 いし	昭和57年生 42歳 いぬ	昭和56年生 43歳 とり
昭和39年生 60歳 たつ	昭和38年生 61歳 うさぎ	昭和37年生 62歳 とら

女性本厄のみ		男性本厄のみ
平成23年生 13歳 うさぎ	昭和62年生 37歳 うさぎ	平成23年生 13歳 うさぎ

「役年」として、自分のお金や労力、時間等を他の人に分け与えることも意識してみましよう。例えば、いつもお世話になってる方に手土産を持って行ったり、困っている人に声をかけてみたり。

日蓮聖人は「地獄(鬼)も仏も心の内」と人の心の中には善も悪も存在し、心の悪を善に転換させることが大切であると仰っています。邪気や厄災、自分の心の中の鬼を祓い、気持ちよく一年を過ごせるよう、手を合わせご祈禱を受けましょう。

冬号もくじ

- ご挨拶
節分析会
- 行事予定(1-4月)
御守り作り体験
ご報告
- 林妙子法尼ご遷化
- お寺の図書館
教室案内
学びの時間
春夏秋冬



去年は子どもからご年配の方まで、お檀家さんや一般の方も沢山ご参加くださいました。



御守りの中身を作ったら、皆様一人一人にご祈祷を行い心願成就を祈ります。

全4回
13:00-14:30

1/2 月
1/8 日
1/18 水
1/28 土

御守り作り体験

令和五年



1月 1日 新年祈祷会
13日 13日講

2日
8日
18日
28日 } お守り作り体験 (13:00-14:30)

2月 11日 節分析祈祷会

3月 21日 春季彼岸会

4月 13日 水神祭

世界にひとつだけの御守りづくり

新

年の願いや目標、又は贈る方へのメッセージを書き入れ、短い写経をし、御守りに封じます。そして日蓮宗独自の木剣修法によるご祈祷を行い、それに向かって努力することを神仏に誓います。

御守りの中身である内符は、この度三十五日間寒水行に合わせてご祈祷したものです。内符は、お寺にお祀りしているご本尊の分身です。「神仏の功德」と「自身の思い入れ」が融合する世界にひとつだけの御守りです。

日蓮聖人もまた、正月を大事にもてなす人は功德を得ると仰っております。正月に一年の願いや目標を定め、それに向かって努力することを誓うことで、清々しい気持ちで新年をスタートさせましょう。

体験後には、新年限定御首題と記念品を授与します。申込みは、電話・メール・立雲寺ウェブサイトに受け付けております。ご参加お待ちしております。

お寺に長女が誕生しました。



映衣実 (えいみ)
令和4年10月7日生まれ

この度、林光汰と妻 美沙妃の間に、第一子となる長女が誕生しました。元気にすくすくと成長しております。お寺で見かけた際は、可愛がって頂けると幸いです。

今後は夫婦・親子ともども、宜しく申し上げます。



光汰 美沙妃



3月 春季彼岸

彼岸とは、彼岸（心の浄土）へ到達するために自ら修行・精進を重ね、先祖への報恩感謝を表す仏道修行の期間です。三月五日〜十五日まで春季彼岸期間（変更あり）。十八日〜彼岸入り。二十一日十三時より彼岸会法要。柵経等は後日別紙にてご案内します。ご先祖に感謝し自身の心の修行ができるよう共に精進する期間に致しましょう。

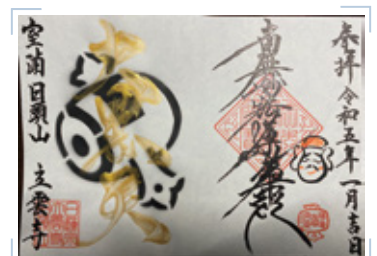
限定御朱印

「大黒天」

12月・1月限定

頒布期間 12月〜1月頃 志納金 500円

12月より頒布予定の「大黒天」デザインのお朱印ですが遅れてしまい申し訳ありません。デザイン出来次第頒布になります！



ご遷化



令和四年十二月二十五日

林 妙子
心月院妙幸法尼

八十四歳



この度、長きに渡り立雲寺を支えてきた尼僧・林妙子が行年八十四歳でこの世を去りました。身体にハンディキャップを抱えながらも、日々仏道修行を怠らず、立雲寺を支え続けた八十四年でした。寺葬にお参り頂いた方、生前お世話になった方々に心から御礼を申し上げます。

僭越ながら、生前孫同然に可愛がってくれ、多くの時間を共に過ごさせてもらった光汰が文を書かせて頂きます。

この文を書いているのが十二月半ば、妙子ちゃんが亡くなって四七日が過ぎようとしています。朝、お寺でいつものように仏様・ご先祖様のお茶を汲みながら「おはようございませす！」と元気に挨拶を交わす事も、「今日はお経忙しいのかい？」と私を気にかけてくれる事も、「りんちゃん、すみちゃんはいっ帰ってくるんだらうねえ」と五歳になる双子の甥が幼稚園から帰ってくるのを首を長くして待つ姿も、もう見られないのだなと思うと、とても悲しくなります。

思えば妙子ちゃんはいっつも周りの人を気にかけていました。寺族や親戚、お檀家さん、友達、みんなが健康に過ごしてほしいといっつも言っていました。妙子ちゃんを昔から知っていたお檀家さんの訃報を聞いた時は、悲しみながらその方々との思い出

結ばせて頂いたご縁に心から感謝申し上げます

を話してくれました。貧しい人や病気で苦しむ人達が少しでも救われるよう、毎月できる範囲でユニセフ、国境なき医師団に寄付をしていたのも、足るを知り慈悲心に厚いからこそだと思えます。そんな妙子ちゃんの周りにはいっつも人がいて、みんなの笑顔がありました。

私が四、五才の頃、妙子ちゃんと亡き犬ジロウとよく散歩に行っていた記憶があります。いっつもお墓・本堂の前・地藏さんの前を通る時妙子ちゃんは立ち止まり、手を合わせ「南無妙法蓮華経」と三回唱えます。私が「なんでいっつも手を合わせているの？」と聞くと「のんのんさんに、今日も一日無事に生かしてくれてありがとうございます。また明日も、無事にお守りください。って伝えてるんだよ」と教えてくれました。その言葉は今でも鮮明に覚えており、仏様・先祖・周りの人達への感謝は、私がいっつも心に置いている妙子ちゃんの教えです。

妙子ちゃんは、痰が絡み十一月十三日に入院し二十五日、自らの意志でお医者さんに呼吸器を外して下さい、と頼みました。いっつも入院しては、奇跡的に回復し退院してくるのですが、自分の最期を悟ったのだと思えます。そして同日の十四時半に亡くなりました。これは、私達が

目指すべき死に様、まさに臨終正念です。自分の役割を懸命に生き抜いた人に訪れる穏やかな死。私も妙子ちゃんの教え、生き様を胸に、僧侶として、人として自分の役割を必死に生き抜こうと思います。
妙子ちゃん、見守っていてね。





今季の一冊



『お坊さんのための「仏教入門」』
正木 晃 著 / 春秋社

葬儀のあり方、お寺離れ、僧侶のあり方…目まぐるしく変化していく世の中、お寺も様々な問題に直面しています。これまでの伝統や教えを守りつつ、現代に合わせてどのように仏教を伝えていくかを考えさせられました。僧侶でない方も現代のお寺事情を知ることができます。(光汰)

法 華経の中に「すなわち変化(へんげ)の人をつかわして、これが為(ため)に衛護(えいご)する」とある。これ(えいご)は「護(まも)る」とな(な)る(なり)とい(い)う(う)こと(こと)だ(だ)。変化(へんげ)の(の)人(ひと)と(と)い(い)う(う)人(ひと)は(は)、観(くわ)音(おん)様(さま)が(が)姿(すがた)を(を)変(か)え(え)て(て)あ(あ)ら(ら)わ(わ)れ(れ)る(る)とい(い)う(う)こ(こ)と(と)で(で)す(す)。仏(ぶつ)様(さま)の(の)教(きょう)え(え)を(を)信(しん)じ(じ)努(こ)力(りき)を(を)重(おも)ね(ね)て(て)い(い)る(る)人(ひと)は(は)、お(お)釈(しゃく)迦(か)様(さま)が(が)変(か)化(か)の(の)人(ひと)を(を)遣(つか)わ(わ)し(し)て(て)、必(かならず)ず(ず)助(たす)け(け)る(る)とい(い)う(う)人(ひと)は(は)、十(じゅう)一(いち)月(げつ)に(に)亡(な)くな(な)った(った)叔(しやく)母(ぼ)妙(めう)子(し)も(も)、思(おも)え(え)ば(ば)幼(せう)少(せう)期(き)の(の)兄(けい)弟(てい)、小(せう)中(ちゆう)学(がく)校(がう)の(の)親(しん)友(ゆう)、大(だい)人(にん)にな(な)っ(っ)て(て)か(か)ら(か)ら(ら)も(も)檀(だん)家(か)さん(さん)や(や)友(とも)達(だつ)、周(しゅう)り(り)の(の)人(ひと)々(々)か(か)ら(か)ら(ら)い(い)つ(つ)も(も)助(たす)け(け)ら(ら)れ(れ)て(て)生(な)き(き)て(て)き(き)た(た)人(ひと)生(な)で(で)した(した)。



学びの時間

第8回

へんげ 「変化の人」

文・林永清

林永清 (はやし・えいしん) / 立雲寺副住職。
令和3年5月より「立雲寺だより」にて一口法話「学びの時間」を連載開始。

「あんな達、立雲寺はこれまで色んな人達に支えられて今があるんだよ。感謝を忘れるんでないよ。」とは叔母の言葉です。皆さんも仏様に手を合わせ、努力を重ねていけば、変化の人が必ずあらわれ、またご自身知らず知らずのうちに変化の人となり、人を助けることが出来るかも知れません。叔母は十一月十三日に入院するその日の朝も、いつも通り何十個もある仏様の水を取り替え、読経をしておりました。私からすると、僧侶として日々あるべき姿を示してくれた叔母こそが、まさしく「変化の人」であったと感謝しております。 拝

春夏秋冬 大河ドラマ「鎌倉殿の13人」で巫女役の大竹しのぶさんが実朝へ「お前の悩みはどんなものであっても、それはお前一人の悩みではない。遙か昔から同じ事で悩んできた者がいる事を忘れるな。この先もお前と同じ事で悩む者がいる事を忘れるな。お前一人ではないんだ。決して」というシーンがありました。脚本の三谷さんがすごいのか演者のしのぶさんが素晴らしいのか、とにかく圧倒され、涙が止まらず感動では収まらない程でした。たしかにその通りだ：なぜ今まで気付かずにいたのだろうか？ (恵)

教室案内

調 寺ヨガ guna



参加費 (ハーブティー付) 1,000 円
マットレンタル 200 円

朝ヨガ	昼ヨガ	夜ヨガ
第2・4日曜日	第1・3日曜日	毎週木曜日
8:45～(60分)	10:30～(60分)	18:45～(60分)

※お寺の都合で変更・中止することがあります。

講師 林南歩
TEL 080-9610-1030



公文書写教室 書

〈学べる教科〉

- ペン習字
- かきかた
- 筆ペン
- 毛筆

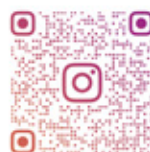
1・2月【1日無料体験学習実施】

3月 6日/13日/27日(月) 17:00～20:00
7日/14日/28日(火) 14:00～19:00
(最大3回まで体験可)

※体験希望の方は事前にお問い合わせ下さい。

講師 林香織
TEL 090-5079-0747

立雲寺 Instagram



RITSUUNJI

立雲寺LINE 公式アカウント



@183iejja

様々など相談を
随時受け付けて
おります。
お気軽にメッ
セージください。